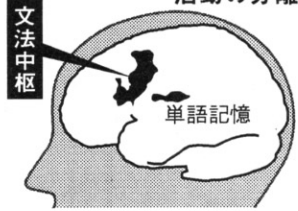


左脳の前頭前野における  
活動の分離



脳には、語学上達のカギを握る「文法中枢」があることを東京大のグループが見つけた。酒井邦嘉・助教授（言語脳科学）は、単語を丸暗記する時に働く部位とは別に、言葉と言葉を自然につないで文章として理解する時にだけ働

# 脳に「文法中枢」

東大グループ発見

く部位があると言う。この成果を生かせば、究極の外国語学習法が開発されるかも知れない。

こめかみ近くの部位が活発に働いていた。一方、単語を暗記する際に活性化したのは、この「文法中枢」とは別の部位だった。

酒井助教授らは、日本人の成人男性十六人に、七十二の例文を見せ、文法と暗記能力サルにもあり、言語能力はこ

数や記憶などの認知能力は

## 語学上達のカギ

うした認知能力の延長にあるという

を問う実験を行い、特定の作業をする時に脳のどこの部位が働いているか測定できるMRI（核磁気共鳴映像法）で分析した。

見方が強いが、酒井助教授は「この部位が人間にだけ備わる心の働きをつかさどり、言葉を話せる人間とサルとの決定的な違いを生んでいるのではないか」と見ている。この

その結果、文章の文法を理

解しようとする時には、全員

が大腦左前頭葉下部にある、

成果は一日付の米科学誌「ニューロン」に発表された。